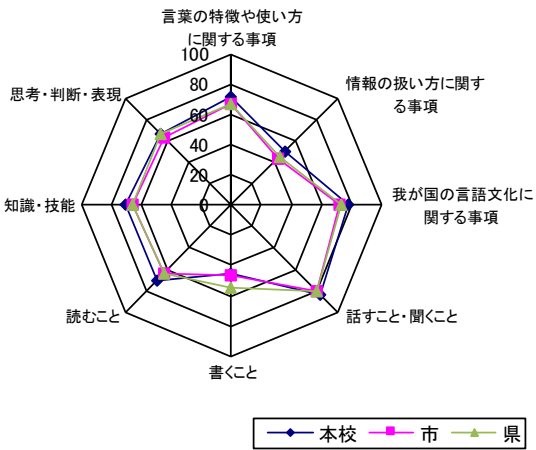


宇都宮市立石井小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	72.1	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	50.0	43.8	45.7
	我が国の言語文化にに関する事項	78.1	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	84.6	81.2	81.2
	書くこと	44.7	46.2	54.9
	読むこと	69.9	64.3	64.5
観点	知識・技能	70.6	65.7	65.7
	思考・判断・表現	67.3	64.0	66.3



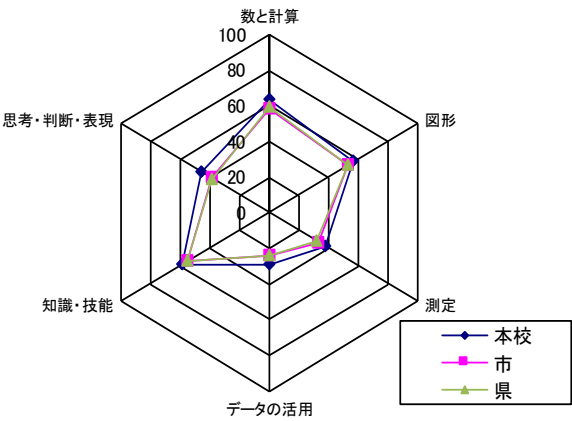
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、県よりも5ポイント、市よりも4.7ポイント上回っている。 ○「漢字を正しく読む」「主語と述語の組み合わせ」に関する問題の正答率は、県や市の平均より高い。 ●「漢字を正しく書く」に関する問題の正答率は県や市の平均と同程度だが、正答率が6割弱と低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み・書きの能力を高めるため、ドリルなどを活用し、毎日継続して練習に取り組めるようにする。 ・ローマ字の学習は、タブレットの活用で習熟が図れてきた。しかし、発音と結び付けた読み書きは十分に定着していないので、練習プリント等を用意し継続して取り組めるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、県よりも4.3ポイント、市よりも6.2ポイント上回っている。 ●「国語辞典の使い方を理解し、使うことができる」に関する設問に関しては、県と市の平均を上回っているものの、正答率が5割と低く、十分な定着が図れていない。	・国語の授業における様々な単元において、積極的に国語辞典を活用できるようにする。国語科の学習だけではなく、総合的な学習などの他教科においても、国語辞典を活用して言葉の意味の理解を深めながら、自身の課題解決につなげていくことができるように継続して指導していく。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○「漢字のへんやつくりを正しく組み合わせて既習の漢字をつくる」に関する問題の正答率は県よりも4.7ポイント、市よりも6ポイント上回っている。	・漢字に対する興味や関心を高めることができるよう、成り立ちや意味について考えながら漢字を読んだり書いたりできるよう指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県や市の平均を上回っている。 ○「話し方の工夫を捉えることができる」に関する問題の正答率は県や市の平均より大きく上回っている。 ●「参加者の発言を基に考えをまとめる」に関する問題の正答率は他の問題に比べ、やや低い。	・話の中心を考えながら聞くことができるように、国語科だけでなく学校生活における様々な場面において、話の内容を振り返ったり、確かめたりする時間を設ける。 ・自分の考えが相手に伝わるように話す力を身に付けさせるために、各教科において活動の形態を工夫し、自分の考えを伝える時間を意図的に設けていく。
書くこと	平均正答率は、県と市よりも下回っている。 ○「段落の役割について理解し、2段落で文章を書くことができる」という設問の正答率は、県の平均や市の平均と同等の結果となっている。 ●「指定された長さで文章を書くことができる」という設問の正答率は、県の平均より11ポイント、市の平均よりも1.9ポイント下回っている。	・授業内において、自分の考えをまとめたり、文章を要約したりする際に、文の長さや段落などの条件を満たして書くよう指導していく。 ・他教科の学習においても、自分の考えを明確にし、条件に合わせて文章を書くことや、情報を取捨選択して文章を書くなどの場を多く取り入れていく。
読むこと	平均正答率は、ほとんどの問題で県や市よりも上回っている。 ○「文章を読んで、感じたことや分かったことを共有することができる」に関する問題の正答率は、県より12.3ポイントと市の平均より10.4ポイント以上高い。 ●「段落の内容を捉えることができる」に関する問題の正答率は、県や市の平均より高いが、5割程度であった。	・文章を読み取る力を伸ばすために、場面の様子を読み取ったり文章を要約したりする活動では、叙述を基に考えたり、感想の交流を行ったりする。その際に、叙述のどこから読み取ったのかを伝え、共有できる場を取り入れていく。 ・説明文の内容を読み取る力を伸ばすために、文章の構成を意識しながら読む活動を継続して取り入れる。

宇都宮市立石井小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.0	58.9	59.2
	図形	56.9	53.0	53.7
	測定	38.4	33.1	32.6
	データの活用	29.5	24.4	24.6
観点	知識・技能	57.9	54.3	54.7
	思考・判断・表現	45.0	38.5	38.3



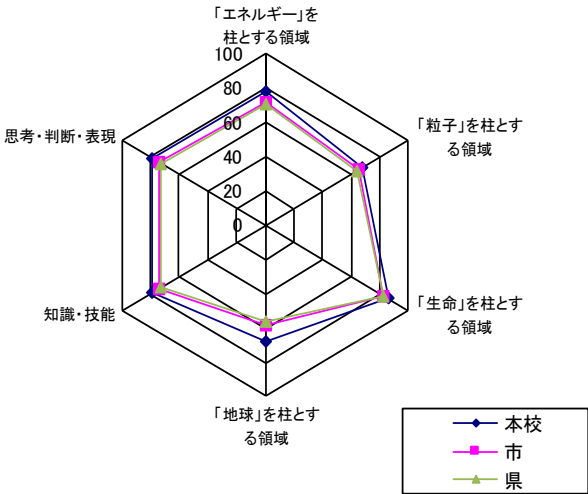
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は63%で、市の正答率を4.1ポイント、県の正答率を3.8ポイント上回った。 ○小数のしくみや表し方として正しいものを選ぶ設問では、市の正答率を6.2ポイント、県の正答率を5.2ポイント上回っている。 ○数量の関係について□を使って正しく表された式を選ぶ設問では、市の正答率を11パーセント、市の正答率を12.3%上回った。 ●同分母の分数のかけ算について計算のしかたを説明する設問では、市の正答率を1.9ポイント、県の正答率を1.8ポイント下回っている。 ●かけ算の計算の仕方について説明する設問では、正答率は、市や県よりも上回っているものの、17.1%と低くなっている。また、この問題の無回答率も、20.2%と高くなっている。	・基礎的な計算力は身に付いてきているので、今後も既習事項をプリントやAIドリルを活用しながら習熟を図っていく。 ・授業の計算の仕方を説明する活動においては、計算の仕方について考える時間を十分にとるとともに、考えたことをノートやワークシートに記述をする機会を意図的に取り入れていく。 ・授業の中で、自分の考えた計算の仕方や、答えの求め方について、少人数グループ活動を取り入れ説明する機会を多くとるようにする。 ・類似の問題に取り組むことで、記述式の回答に慣れることができるようにする。
図形	平均正答率は56.9%で、市の正答率を3.9ポイント、県の正答率を3.2ポイント上回った。 ○二等辺三角形になる図を選ぶ設問では、市の平均を3.2ポイント、県の平均を4.8ポイント上回っている。 ●円の性質を利用して箱のたての長さを求める設問では、正答率が、46.5%で、市の平均と県の平均を上回っているものの、無回答も16.3%と高く、課題が見られる。	・円や三角形などをデジタル教科書や掲示物などを活用して具体的に提示し、思考を整理しながら問題に取り組むことができるようにする。 ・児童自身が図を使用しながら、求め方を説明する機会を取り入れたり、求め方について話し合う機会を多く設ける。
測定	平均正答率は、38.4%で、市の平均を5.3ポイント、県の平均を5.8ポイント上回っている。 ○重さが同じになる組み合わせを選ぶ設問では、正答率が、市の平均、県の平均とともに10ポイント以上上回っている。 ●前後の時刻や時間の経過から、途中の時間を答える設問では、市や県の平均をわずかに上回っているものの、正答率は38%と低く、さらに無回答率も20.9%と高くなっている。	・算数科の時刻や時間の学習だけでなく、他の活動など日常生活の中で、○分後や○分間などを意識させ、時間の感覚に慣れることができるようにする。 ・重さの学習では、身近なものの重さを実際に測ったり、目盛りを読む学習を多く行うことで、理解できるように指導していきたい。 ・類似した問題に取り組むことで、問題に慣れさせ回答率を上げることができるようにする。
データの活用	平均正答率は29.5%で、市の正答率を5.1ポイント、県の正答率を4.9ポイントを上回った。 ○目盛りの付け方が異なる2つのグラフについて、棒の長さで数を比べられないわけを問う設問では、市と県の正答率を7.5ポイント以上上回った。 ●示されたテーマについて適切なグラフを選び、選んだわけを説明する設問については、市や県の正答率を2ポイント以上上回ったものの、正答率は13.2%と低い。	・目的に合ったグラフを選択したり、どうしてそのグラフが効果的なのかを説明したりできるように類似の問題に取り組ませる。また、グラフを表す活動については、他教科や総合的な学習の時間などでも取り入れ習熟を図っていきたい。

宇都宮市立石井小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	78.2	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	67.3	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	85.5	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	67.4	57.7	56.2
観点	知識・技能	78.4	73.8	72.8
	思考・判断・表現	78.9	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	領域の平均正答率は、市や県の平均正答率よりも6ポイント以上高い。 ○実験の結果から変化を読み取ったり、回路の見えない部分について推測したりすることがよくできており、授業で実験を通して自分で確かめたことは正答率が高い。 ●手ににぎるとトライアングルの音が止まるのはなぜかなど、音とふるえのように関連付けて考えることや理由を自分の言葉で説明する点で課題が見られる。	・自分で考え予想を立てて行う実験や観察などの経験は、学習への意欲が高まり、理解も深まると思われることから、今後も実際の体験を通して新しい知見を得ることで深く理解できるように導入や実験の内容を工夫していきたい。 ・実験の目的を明確にしうえて、結果の予想や考察など十分に時間をかけて記述に取り組ませ、自分の言葉で順序だてて説明することができるようにしたい。
「粒子」を柱とする領域	物質の比重に関する平均正答率は、市平均・県平均より6～7ポイント上回っているが、48.1%と低い正答率である。 ○同じものであれば、形状が変わっても重さは等しいということを理解している。 ●市平均・県平均を上回っているものの、同じ体積でも物質の種類が異なれば、重さは違うということを理解している児童の割合が半数に満たない。 (本校平均・市平均・県平均とも正答率は50%以下)	・具体物を使つての比較実験や観察を多く取り入れることで、実験結果をもとに推測したり、応用して事象を説明できるようにしていきたい。 ・学習したことを身の回りで起きている様々な事象と結び付け、体験による経験値を高めることで、一人一人の理解を深めさせるようにすることが大切であると考ええる。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均とほぼ同じである。 ○種類はちがっても、植物の体のつくりや育つじゅんは同じであることを理解できている。 ●虫眼鏡の正しい使い方を選ぶ問題は、県や市の正答率は上回っているが、正答率55%と全問中最も低い正答率であり、課題がある。	・今後も、更に実物を用いた観察を通して、その時々の変化だけでなく、時系列な変化や成長の様子にも着目しながら記録を取らせるようにすることで、その生物に興味関心をもたせるとともに、生命の意味に迫るようにしたい。 ・様々な道具や用具を実際に用いながら、その正しい使い方を身に付けさせるようにするとともに、用語を適切に使って働きを身につけさせ、その道具の便利さなどにも目をむけるようにしていきたい。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、すべての問題で平均値を上回っている。 ○影が太陽の反対側にできることを理解し、影踏み動きと結び付けられているのも、影踏みの遊びの体験を通して得られた結果と思われる。 ○方位磁針の正しい使い方は、15ポイント以上高く、方位磁針を様々な場面で正しく使用していることが分かる。	・今後も、実物を用いた観察・実験・身近な体験を通して理解を深められるようにしたい。 ・道具や用具を実際に使用する際は、正しく使い方を身に付けられるように丁寧に指導していくことが大切である。

宇都宮市立石井小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

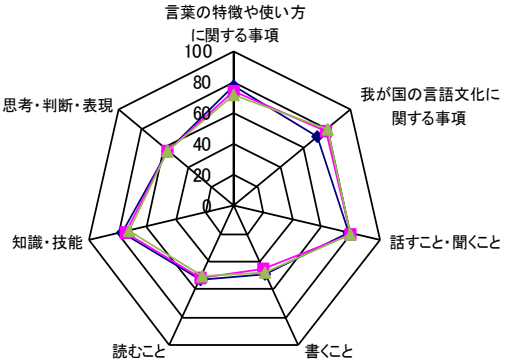
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「勉強していて、不思議だな、なぜだろうと覚ることがある。」の肯定的回答は、88%で県の平均を5%上回っている。また、「勉強して、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の肯定的回答も、県や市を上回っている。前向きに学習に取り組むことができる姿勢を、今後も伸ばしていきたい。
- 「家の人としょ来のことについて話ることがある。」についての肯定的回答は75. 2%で、県の平均を6. 3%上回っている。「ドリームカード」として、児童の夢を掲示する取組を学校で行っていることも1つの要因と考えられる。今後も保護者との協力を図りながら、夢をもつことや将来について考えることの大切さを伝えていきたい。
- 「学校の宿題は、やりたくなる内容だ。」の肯定的回答は46. 6%で市の肯定割合を約20%下回っている。計算や漢字練習などの知識・技能を身につける課題だけでなく、思考力を問う課題を取り入れるなど、宿題の内容について検討する必要がある。
- 「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている。」や「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」の肯定的回答が市や県の平均を10%以上下回っている。授業でのノート指導を繰り返し行うとともに、ふり返りの視点を示すなど児童が意識できるよう工夫していきたい。
- 「友達の前で、自分の考えや意見を発表することは得意である。」の肯定的回答が44. 4%で市や県より約7%下回っている。学習の中で話し合い活動を取り入れたり、グループ活動を増やしたりすることで、学び合うことの楽しさを味わわせ、自信をもって発言できる児童を育成したい。
- 「自分の行動や発言に自信をもっている。」についての肯定的回答は57. 9%で、県の平均よりも10. 2%下回っている。学習や生活など、さまざまな場面で教師による児童を認める声かけや、友達同士のよさを認め合う活動を充実させることで、自分のよいところを自覚し、自信をもって行動したり発言したりできる児童を育成したい。
- 「社会の授業の内容はよく分かりますか。」についての肯定的回答は76. 7%で県よりも約10%下回っている。身近な出来事や生活の中から疑問に思っていることなどを授業の中で取り上げ、子どもたちが授業内容を自分事として捉えられるようにするなど、分かりやすい授業となるよう工夫する。
- 「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは辞書を使って調べている。」や「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている。」については、どちらも市の肯定的割合を11%程度下回っている。わからないことや不思議に思ったことを調べるように声掛けを続けるとともに、授業や宿題でも自ら調べる機会を増やして、分かる喜びを実感させていきたい。

宇都宮市立石井小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	77.5	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	72.1	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	79.1	80.4	80.0
	書くこと	48.5	45.1	48.0
	読むこと	52.3	51.3	50.0
観点	知識・技能	77.0	75.2	72.8
	思考・判断・表現	58.0	57.0	57.0



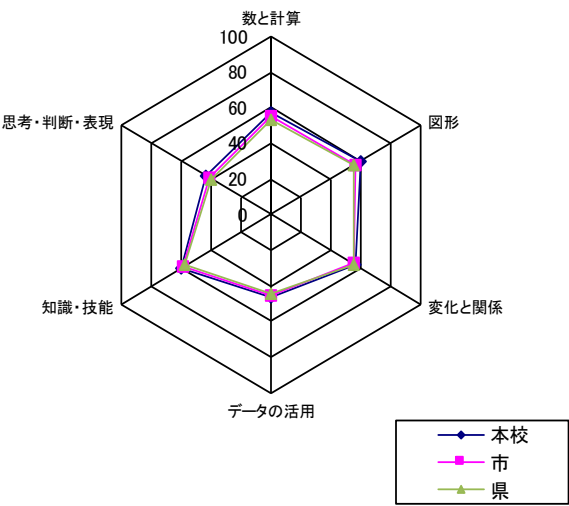
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、県より5.5ポイント、市より2.7ポイント上回っている。 ○文を読み、様子を表す語として適しているものを選ぶ問題は、正答率が高かった。 ●第4学年に配当されている漢字を書く問題については、正答率が低い問題については、無解答率も高い割合になっていた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み方や熟語について理解を深めるために、朝の学習などの時間に、ドリルやプリントなどを活用し繰り返し練習する時間を設ける。 ・既習の漢字を活用することができるようにするために、国語科の学習だけでなく、文章を書く活動の際には漢字を使うよう意識させる言葉かけをする。 ・語彙を広げるために、読書や読み聞かせの機会を設ける。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、県より7.8ポイント、市より6.5ポイント下回っている。 ●慣用句の意味を理解して、自分の表現に用いることができていない。	・我が国の言語文化に親しみをもたせるために、日常生活の中で慣用句等を用いて自分の表現ができるように指導したり、図書資料を活用し、我が国の言語文化に触れる機会を設けたりしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県より0.9ポイント、市より1.3ポイント下回っている。 ○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることができるかどうかの問いの正答率は県や市の平均正答率を1ポイント以上上回った。 ●司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に、考えをまとめることができるかどうかの問いの正答率は、県や市の平均正答率を4ポイント以上下回った。	・話し手が伝えたいことの中心を捉えながら話を聞く力を伸ばすために、大事な言葉をメモに取りながら聞いたり考えをまとめたりする時間を設定していく。 ・国語科だけではなく、他の教科や学級活動などで、話し合い活動をする場を設定していく。
書くこと	平均正答率は、県より0.5ポイント、市より3.4ポイント上回っている。 ○内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書くことに関する問題ができていた。 ●無解答の児童が2割見られた。最終問題であることから、時間が足りずに問題に取り組むことができなかった、あるいは、解答する時間がかかりすぎたと考えられる。	・資料から読み取ったことについて自分の考えを書く力を伸ばすために、国語科の授業において、資料について自分の考えをもったり、話し合ったりする時間を設定していく。 ・文章を書く力を伸ばすために、国語科以外の学習の場面においても、決まった時間内に、決められた文字数の文章を書く機会を設定していく。
読むこと	平均正答率は、県より2.3ポイント、市より1ポイント上回った。 ○説明文の内容を読み取る問題では、すべての問いで市の正答率を上回った。 ●物語文の場面の様子、登場人物の性格についての問題の正答率は、市の平均を下回った。	・説明的な文章を読み取る力を伸ばすために、叙述を基に文章の内容を捉える課題や段落相互の関係を捉える課題を設定していく。また、情報の関係を理解し、中心となる語や文を見つけて要約する活動を取り入れていく。 ・物語文を読み取る力を伸ばすために、叙述を基に考えさせる課題を設定したり、文章を読んで感じたことや考えたことを交流したりする活動を取り入れていく。

宇都宮市立石井小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	57.3	54.9	53.7
	図形	60.2	56.6	56.1
	変化と関係	56.6	55.1	55.2
	データの活用	46.8	45.5	44.8
観点	知識・技能	60.0	57.8	57.2
	思考・判断・表現	43.5	40.6	39.5



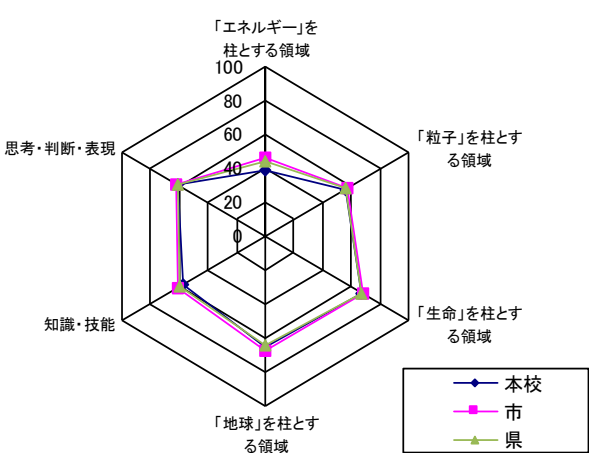
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県よりも3.6ポイント、市よりも2.1ポイント上回った。 ○数直線上の目盛りが示す分数を読み取ったり、同じ大きさの分数を選んだりする問題の正答率は県や市の平均正答率を上回った。 ●分数や小数の計算問題の正答率は県や市の平均正答率を下回ったものが多い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎基本の徹底を図るために、習熟度別学習やチームティーチング等、授業の形態を工夫する。 ・計算ドリルやAIドリルなどを活用しながら、確実に計算ができるよう繰り返し問題に取り組めるようにする。
図形	平均正答率は、県よりも4.1ポイント、市よりも3.6ポイント上回った。 ○複合図形の面積の求め方を考える問題の正答率は高く、県や市の平均正答率を10ポイント程度上回った。 ●立方体の展開図について考える問題の正答率は県や市の平均正答率を下回った。	・基礎が身に付いているので、さらに力を伸ばせるよう、AIドリルなども用いながら、引き続き習熟を図る。 ・実際に展開図を描いたり、組み立てたりする等、算数的活動を通して習熟を図る。
変化と関係	平均正答率は、県よりも1.4ポイント、市よりも1.5ポイント上回った。 ○伴って変わる2つの数量関係を読み取り、式に表す問題の正答率は県や市の平均正答率を7ポイント以上、上回った。 ●割合を使った比べ方について説明する問題の正答率は県や市の平均正答率を下回った。	・伴って変わる数について身に付いている児童が多いので、引き続き習熟を図っていく。 ・割合の仕組みについては理解できているので、グループ学習等を通して、言葉で説明したり文章で表したりする活動を積極的に取り入れるようにする。
データの活用	平均正答率は、県よりも2ポイント、市よりも1.3ポイント上回った。 ○二次元の表の意味を理解し、傾向を読み取る問題の正答率は県や市の平均正答率を上回った。 ●グラフから読み取ったことを説明する問題の正答率は県や市の平均正答率を下回った。	・グラフや表の読み取りがより確実にできるよう、繰り返し同じような問題に取り組ませる。 ・自分の言葉で文章を書く問題の無回答率が高かったので、空欄の中に言葉を入れて回答する問題を多く解くなどして、文章の書き方に慣れさせたい。

宇都宮市立石井小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	39.0	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	55.4	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	67.3	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	65.9	67.2	64.6
観点	知識・技能	57.6	60.8	59.2
	思考・判断・表現	61.2	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、県や市よりも5ポイント以上下回まっている。 ○「電気のはたらき」において、電流の強さが同じになる回路は理解しているかどうかの問題では、校内の正答率が県の正答率よりも5ポイント上回っていた。 ●「電気のはたらき」において、つなぎ方の名称を答える問題では、校内の正答率が県や市の正答率よりも16ポイント下回っていた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験後の結果のまとめの際に、用語についても丁寧に扱い、用語を用いて自分の言葉でまとめることができるように指導する。 ・繰り返しの学習を行うことで、知識の定着を図るようにしたい。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、県や市よりも2ポイント下回っている。 ○「物の体積と温度」において、金属の体積の変化について記述する問題に関しては、校内の正答率が県の平均正答率を8.3ポイント上回っていた。 ○「水の温まり方」において、水を温めた時の変化を答える問題では、校内の正答率が県の正答率よりも8ポイント上回っていた。 ●「水のすがた」において、やかんの口の近くの白いけむりの正体を答える問題では、校内の正答率が県の正答率よりも8.5ポイント下回っていた。	・自らの予想や仮説をもとに実験結果を作成し、児童一人一人が実験結果を見通す活動を丁寧にを行うことで、なぜその実験にその準備が必要なのかをよく理解できるようにする。 ・学習したことを身の回りで起きている様々な事象と結び付けたり体験させたりすることで、理解を深めさせるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、県や市と同程度である。 ○「生き物の1年間」について、季節と植物の変化を問う問題では、校内の正答率が県の正答率よりも8.5ポイント上回っていた。 ○「ヒトのからだのつくりと運動」について腕をのばしたときの筋肉の様子について問う問題では、校内の正答率が県の正答率を7.6ポイント上回っていた。 ●「生き物の1年間」について、1年間の季節と生き物の様子についてを問う問題では、校内の正答率が県の正答率を6.9ポイント下回っていた。	・1年間を通し、継続した観察を丁寧にを行うことで、季節による生き物の変化がよく理解できるようにする。 ・児童が得た知識を図や模型などを用いて説明する活動を取り入れることで、さらに知識を定着することができるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、県や市と同程度である。 ○「星や月の動き」において、星の動きと星座のなり方について問う問題では、校内の正答率は県の正答率を6.9ポイント上回っていた。 ○「1日の気温の変化」において、正しい気温のはかり方を選ぶ問題では、校内の正答率が県の正答率を6.4ポイント上回っていて、市の正答率と同等であった。 ●「水のすがた」において、蒸発について正しく理解しているかを問う問題では、校内の正答率が県の正答率を4.1ポイント下回った。	・問題を読み取って考える力を付けるために、他教科と関連させることが必要であるとする。 ・繰り返し類似した問題を解かせることで、知識の定着を図る。

宇都宮市立石井小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校のきまりを守っている。」の質問に対する肯定的回答は、95.5%と高く、市の平均を1.2%上回っている。また「学級活動の時間に、友達同士で話し合ってクラスのきまりなどを決めていると思う」の質問に対する肯定的回答も88.7%と高いため、日ごろからきまり対しての意識が高いのではないかと考えられる。集団生活においてきまりを守ることの大切さを、引き続き指導していきたい。

○「理科の学習は、しょう来のために大切だと思う」の質問に対する肯定的回答は88.4%で、市の平均を2.2%上回り、「理科の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている」の肯定的回答は79.7%で、市の平均を6.6%上回っていた。これからも実験をしたりタブレットを活用したり、生活に結び付けて考えたりするなどして、指導の充実を図っていきたい。

○「家で、学校の宿題をやっている」の質問に対する肯定的回答は89.5%と高く、市の平均を3.4%上回っている。また、「学校の宿題は、自分のためになっている」の質問に対する肯定的回答も72.2%と高いため、宿題をやることの意味をしっかりと意識できているといえる。家庭でも学習に取り組む大切さを、引き続き指導していきたい。

●「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」の質問に対する肯定的回答は、94.7%と高い。一方で、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の質問に対する肯定的回答は51.1%と市の平均よりは3%上回っているが、低い結果となった。また、「自分の行動や発言に自信をもっている。」の質問において、否定的な回答が34.6%であり、自信がなく、発表が苦手だと感じる児童が多いと考えられる。授業や学校行事を通して、肯定的な声掛けを行い、児童の自己肯定感を高めていきたい。

●「自分は家族の大切な一員だと思う」の質問に対する肯定的回答は97.8%と高く、市の平均を2.4%上回っている。一方で、「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」の質問に対する肯定的回答は85.7%で、市の平均より3.5%下回っている。児童の頑張りや個人懇談等で保護者に伝えたり、ほめほめカードを家庭に持ち帰ってコメントを書いてもらうなどして、児童のよさと保護者と共有して、自己肯定感を高めるようにしていきたい。

●「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」という質問に対する肯定的回答は41.4%で、市の平均を10%以上下回っている。あわせて、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」という質問に対する肯定的回答も27.8%と低い結果となった。学習の楽しさを実感できるような活動の充実と、児童が意欲的に学習に取り組める環境づくりをすることで、児童が意欲的に学習に向かう姿勢を育てていきたい。

宇都宮市立石井小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えを伝え深め合う活動の工夫	・振り返りにおいて、自分の考えたことや気付き、今後の課題などを書く活動を取り入れている。 ・ペアや少人数での考えを伝え合う活動を各教科で取り入れている。	・「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」という質問に対し、難しいと感じている回答は、4年生では73%、5年生では77.5%と多くの児童が難しいと感じていることが分かる。 ・「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」の肯定的な回答は、4年生では74.4%と、5年生では77.4%と市や県の平均をやや下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・自分の考えを文章で書き表すことや、自分から考えを伝えることに課題が見られる。 ・伝え合いの活動から、話し合いに深め、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるようにすることが必要である。	・各教科において主体的に考え、充実した話し合いを行うことで、互いの考えを共有したり、深めることができるようにする。	・解決したい児童自身の「問い」や「疑問」を明確にもって話し合いに臨むことができるように、まずは自分の思考を整理し書き表す活動や、解決に向けての話し合いであることを意識させた活動を意図的に取り入れていく。 ・様々な教科において、課題解決のためにペアや少人数グループでの話し合い活動を積極的に取り入れるとともに、聞き方のポイントを指導したり、話し合いの観点を提示したりするなどの工夫をする。